

賃率について

KJS 管理会計実践サポート(株) 関 洋一

1. 一般的な賃率(=「コスト・経費」由来)

いわゆる原価計算に用いられる賃率は、労務費を製品別に計算するために必要とされるもので、この場合の賃率は、時間当たりのコスト(費用)です。

その式は、

直接作業者の賃金 ÷ 直接作業時間 = 直接労務費の賃率 　　です。

その後、

直接作業時間 × 賃率 = 直接労務費 　　で計算し、原価計算に用います。

2. 一倉式賃率(=「付加価値」由来)・・・以後「S賃率」と呼ぶ

その目的は、製品原価を把握することではなく、対象製品や顧客別ごとに獲得付加価値(売価-変動費)と投入工数から収益性を判定して、前向きに打つべき手を検討するためのものです。

全社の年間内部費用(=固定費)と同額の必要付加価値額と年間営業利益、そして年間予定直接工数が基準となります。

見積算出手順の比較・差異

| 項目 | 1. 一般的な見積 | | 比較 | 2. 一倉式賃率による見積 | |
|--------------|----------------|-----------------------|----|---------------|--------------------------------------|
| 呼び方 | 工賃レート、チャージ等 | | | 付加価値由来賃率、S賃率 | |
| 材料費:外注費(変動費) | A | 個別積み上げ | ≡ | a | 個別積み上げ |
| 直接労務費 | B×t | 労務費より単価割り出し(B=一般的な賃率) | } | b×t | 年間必要付加価値額 年間想定直接工数 (b=S賃率) |
| 間接人件費 | C | 一般経費として配賦計上(前例or業界踏襲) | | | |
| 固定経費 | D | | | | |
| 見積金額 | A+Bt+C+D | 過年度実績基準で配賦 | ≠ | a+bt | 今期計画が基準 |
| 積算根拠 | 当社の過去実績&業界標準 | | | 当社の今期「生きる条件」 | |
| 恣意性の有無 | 恣意性あり=配賦にはつきもの | | | 恣意性なし=事実情報のみ | |
| 情報の精度 | 低い→どこか腑に落ちない | | | 高い→納得できる | |

t=作業時間

(注) B≠b(B<b)

3. 一倉式賃率(S賃率)の活用方法

前提1: 原価計算における賃率の定義を捨てること。

前提2: 財務会計方式ではなく、変動損益計算による管理会計方式に変えること。

以下、具体的な手順です。

手順1: 分岐点賃率および必要賃率を求める

損益分岐点賃率 = 内部費用(固定費)相当付加価値 / (手持総工数 × 直接工の出勤率)

必要賃率 = {内部費用(固定費) + 必要利益} 同上 / (手持ち総工数 × 直接工の出勤率)

手順2: 商品別(物件別)の実際賃率を求める

実際賃率 = 付加価値額 / 投入工数

ここでの実際賃率は、単位工数(日 or 時 or 分など)当たりの付加価値額

手順3: 判定を行う

◎健康商品 > 必要賃率 > ○貧血商品 > 分岐点賃率 > △疑似出血商品 > 0 > ×真性出血商品